



2014年 総長顕彰受賞

船舶海洋工学のトップリーダーを育てることは
大阪大学に課された歴史的責務

工学研究科 教授
柏木 正 — Masashi Kashiwagi

大阪大学の前身の一つ、大阪工業学校造船部が1900年に1期生を迎えて以来、大阪大学は時代を継いで造船学・船舶海洋工学の最先端を担ってきた。学術・産業界のトップランナーを輩出。その一人である柏木正教授は、未来を担う後進の指導に力を注ぐ。

柏木教授は2013年の社会・国際貢献部門に続き、14年は教育部門、総長顕彰受賞は2年連続となった。今回は海洋・都市基盤工学グローバルリーダー育成特別プログラムの企画と申請への尽力が「教育のグローバル化や国際的人材育成の要請に応えるもの」と高く評価された。

「前任の九州大学では研究中心でしたが、阪大赴任にあたって、船舶海洋工学の伝統を引き継ぐ人材を育成したいと考えました」。授業に際しては、丹念な講義ノートを作成するなど、徹底して準備。地球総合工学科の各学科目では卒業する学生を対象に、総合的に最も良かった講義を選ぶというアンケートを実施しており、そのトップ評価に与えられる地球総合工学教育賞を第1回から4年連続で受賞。柏木教授は「しゃべるのが上手というわけではありません。『絶対に君らを世界のトップにする！』と熱意をもって臨めば、学生に伝わるのでしょう」とほほ笑む。また、「そう言えるためには、自分も世界のトップクラスに居ないといけないので、頑張らざるを得ない」とも。2011-2012年にWeinblum Memorial Lectureshipを受賞しているだけに説得力がある。これは、船舶流体力学の分野で国際的に顕著な功績のあった研究者にドイツ・アメリカの学会から毎年1人だけに贈られる最高峰の栄誉。日本人で6人目。

日本学術振興会の「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」の活用など学内外で若手の育成に力を注ぎ、教育と研究に八面六臂の活躍だ。

(写真は吹田キャンパス・船舶海洋試験水槽で)

●柏木正(かしわぎ まさし)
78年大阪大学工学部造船学科を卒業、83年同工学研究科造船学専攻博士課程修了。神戸商船大学商船学部航海学科・助手、九州大学応用力学研究所・助教授、2001年より同教授。08年大阪大学工学研究科地球総合工学専攻・教授。工学博士、専門は船舶耐航性、海洋浮体工学。2011-2012年Weinblum Memorial Lectureship 受賞。



▲Weinblum Memorial Lectureship 受賞時のパンフレット

【総長顕彰】：教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献または管理運営上の業績が特に顕著であると認められた者を顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的としている。

2014年 総長奨励賞受賞

経験を糧に研究領域を開拓
地方自治の本質に迫る

法学研究科 准教授
砂原庸介 — Yosuke Sunahara

「『最近は何をしているのですか？』と聞かれたら『日程の調整を毎日…』と答えますね」と笑う砂原准教授。研究のみならず新聞や一般雑誌からも寄稿やコメントを求められる。大阪都構想にゆれる関西在住で、専門が政治学・行政学、わけても地方自治や地方政府・政党の若手の専門家とあって、マスメディアから引っ張りだこだ。

2013年には、大阪をテーマにした「大阪—大都市は国家を超えるか」(中公新書)が評価されサントリー学芸賞を受賞。この業績で14年度の総長奨励賞を受賞した。

学生時代、公務員の道も考えたが「勉強が嫌いだったから大学院に進んだ」と冗談交じりに話す。もともとは東南アジアの経済発展を学ぼうと大学院に入ったが、足元にある日本の地域コミュニティや行政の問題に注目。地方自治体の制度と意思決定過程に、統計的・分析的手法で迫る現在の研究に進んだという。

「振られた仕事で触れたものに興味を持てるのが良かったのかも」と話す砂原准教授は、2009年から大阪市大で大阪の政治や行政を研究。とっぴに思われがち「都」構想だが、実は大阪が積年抱えてきた都市問題に対する一つの政策として位置付けられる。議会では是非がもたら問われるが、地方政治・行政にあつてさまざまな意見や思惑が渦巻く根源をとらえる必要があるというのが持論。特にその根源である議会の選び方を決める選挙制度については、社会科学的な検討が欠かせないという。

将来の展望を聞くと意外なテーマが返ってきた。「次は『住宅』をやろうかなと。これも、実は震災関連の仕事で東北に行ったことがきっかけなんです」と新たな問題の本質に迫ろうとしている。

●砂原庸介(すなはら ようすけ)
2001年東京大学教養学部を卒業。06年同総合文化研究科博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、大阪市立大学法学研究科准教授を経て、大阪大学法学研究科准教授。博士(学術)。専攻は政治学・行政学。



砂原庸介 著「大阪—大都市は国家を超えるか」▶ (中公新書・2012)

【総長奨励賞】：若手教員のうち、教育又は研究の業績があると認められ、将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的としている。



■写真説明
1 海外出張が多く、最近のご当地マグネットをコレクションに
2 外国人留学生から贈られたボトルシップ



2



■写真説明
1 「サントリー学芸賞」授賞式
2 週刊東洋経済「政治は嫌いと言う前に」2012～13年に連載。単行本に編み直して刊行準備中

